

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取工業高等学校

重点項目	地域を支える専門人材育成	提出日	令和5年4月25日
------	--------------	-----	-----------

1 学校目標	
『地域を支える人財（材）、技術者の育成』 技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>(1) 学力の向上</p> <p>ア 授業改革と学力の向上</p> <p>イ 主体的な学習態度と実践力の向上</p> <p>(2) 豊かな人間性の育成</p> <p>ア 互いを尊重する態度と社会性の涵養</p> <p>イ 健全な心身と社会貢献精神の育成</p> <p>(3) キャリア教育の充実と進路実現</p> <p>ア 専門的な知識・技術の習得</p> <p>イ 勤労観・職業観の育成と進路指導の徹底</p> <p>ウ 地域や産業界との連携強化</p> <p>&lt;数値目標&gt;</p> <p>(1) 基礎力診断テストにおいて国公立大学への進学を視野に入れることができるBゾーン以上の学力層にある工業学科生徒割合 18%以上</p> <p>(2) 就職内定率 100%（第一希望先就職内定率 90%以上を維持）</p> <p>(3) 単年度資格取得数一人一資格以上</p> <p>(4) ジュニアマイスター顕彰（複数の難度の高い資格取得者を顕彰するもの）対象者 15 名以上</p>	<p>目安とするBゾーン以上の生徒は三科総合で16%、2年生は20%を達成した。四年制大学に12名が合格（うち国公立大学1名）。国公立の技術大学校・短期大学校のほか、専門学校等も含めた進学者の割合は40%を超え、例年を上回るものとなった。</p> <p>就職はコロナ禍でも求人数が高い状態で推移しており、県外大手企業からの求人も増加した。企業との信頼関係は本校の強みであり、昨年同様に今年も第一希望の就職内定率が目標を大きく上回った。</p> <p>単年度資格取得の割合は一人当たり0.63資格と昨年並みであったが、3ヶ年間の資格取得率は95%であった。単年度で全員が資格取得を果たしたクラス、難関資格に向かったクラスもあり、ジュニアマイスターの被顕彰者数は昨年の2倍に増加した。</p> <p>&lt;数値結果&gt;以下は令和5年3月末時点の結果</p> <p>(1) 約16%</p> <p>(2) 就職内定率100%（第一希望内定率95%）</p> <p>(3) 0.63資格/人</p> <p>(4) 20名（ゴールド6名、シルバー10名、ブロンズ4名）</p>
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニング推進のための講師派遣事業（今年度は、県の事業として実施） 文部科学省ICT情報教育アドバイザーの竹中章勝氏を招き、7月と2月の2回にわたって鳥工版STEAM教育の意義、ICT機器の効果的な使い方等について、事例と実践を交えながらお話をいただいた。</li> <li>・社会人講師活用事業 社会人講師と教職員のティームティーチングにより、フライス盤を用いた材料加工、三相誘導電動機の正・逆転回路、インターロック回路の知識と技能を習得した。</li> <li>・キャリア教育充実事業（1年生） 「さまざまな働き方、暮らし方」をテーマに、複数の地元企業の方に講義を依頼する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によって企業を集めることができず、中止した。</li> </ul>	

- ・キャリア教育充実事業（2年生） 先輩を囲む会  
各科の卒業生（就職者7名、進学者1名）を招き、2年生全クラスに一部の1年生クラスを交えて小学科ごとに実施した。
- ・キャリア教育充実事業（3年生） 社会人としての基礎教養講座  
就職・進学後に必要なビジネスマナーや社会常識、ふるさと鳥取での就職等について、社会保険労務士会、鳥取県労働者福祉協議会等からの派遣講師による講義を実施。就職志望者68名、進学志望者51名が参加した。
- ・キャリア教育充実事業（1・2年生） 分野別進路ガイダンス  
鳥取テクノヒルズ会員企業を中心とした地元産業界及び上級学校から講師を招き、各業種別の内容や実態、諸学問の分野別の内容について講演会を開催。生徒自身が13の職業分野から4テーマ（各20分）、または4つの上級学校から2校（各50分）を選んで参加した。

## 【独自事業】

### （1）授業改革・学力向上事業

- ・教員指導力向上研修

日本自動車教育振興財団（JAEF）研修、電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会、西日本高等学校土木教育研究会等に参加。授業実践等に生かすべく、最新の技術や情報に触れた。

- ・鳥工版STEAM教育推進事業

10月に職員2名が同志社中学・高等学校を視察。教科との関連、客観的評価、生徒の変化等について、同校の反田任先生にご教示いただくとともに、ミニ動画を用いた指導実践に示唆をいただいた。

### （2）豊かな心育成事業

- ・放課後の時間を活用し、ALTと英語を学び合う機会を設けた。また、英語リスニング検定の受検を支援し、2級に6名、3級に3名が合格した。

### （3）ものづくり技術育成事業

- ・AIプログラミング教育

Google Drive及びGoogle Workspaceと連携するGoogle Cloud Platformを用いた教材作成、及び、高機能パソコンの整備を進めており、令和5年度に3年生向けのAI実習で導入を始める予定である。

- ・資格取得促進事業

7月にドローン検定を受検し、4級に3年生20名が合格。3月には同じく4級に2年生が受検、24名が合格した。電気工事士については第1種・第2種の受検に向け、放課後に実技指導を行った。

- ・課題研究発表会

2月に各科から選抜された5テーマによる発表会を、ハイブリッド形式により校内で開催。奈良女子大学非常勤講師の竹中章勝先生に講評をいただいた。

- ・鳥工版デュアルシステム

機械科2名、電気科4名の生徒が参加。企業3社の協力を得て、4月末から概ね8回の実習を行い、より実践的な技術・技能を身につけた。

- ・最先端技術分野ロボット製作

10月に青森県で開催された第30回全国高等学校ロボット競技大会に、3年生4名、2年生1名が出場。「リンゴの収穫」をテーマに、リモコン操縦型、自立型のロボットを製作し、競技に挑んだ。

- ・創造的技術育成事業

マイコンカーラリー 鳥取県大会 3名出場

Ene-1 Challenge 出場 KV-40（高校部門13位、2ndで過去最速を記録）、KV-BIKE（高校部門4位）

WRO Japan 中国大会 出場

- ・ものづくり技術育成事業（ものづくり大会）

電子回路組立部門 中国大会 2名出場

電子回路組立部門 鳥取県大会 1・2・3位（1・2位の生徒は、次年度の中国大会出場権を獲得）

測量部門 鳥取県大会 3位

(4) キャリア教育推進事業

・インターンシップ

コロナウイルス感染症拡大の時期と重なったため中止した。

・進路指導支援事業

大学入試問題集、進学情報誌のほか、リスニング、小論文指導、推薦・AO入試関連の書籍を進路資料室に配架した。

4 総合所見 (成果・評価)

鳥工版STEAM教育をはじめ、AI・ドローン等の先端分野の実習、10月からスタートした県商工労働部によるスーパー工業士認定プログラムの受講などの新しい取り組みを進めており、その土台となる座学、とりわけ国語・数学・英語について、継続して基礎力を測っている。

「Bゾーン以上20%」を目標とした基礎力診断テスト（「高校生のための学びの基礎診断」ツール）について、三教科総合（国数英）でのBゾーン以上の割合は16%であった。教科別では国語及び数学の2教科で全学年とも目標を達成しており、2年生の国語で36%、同じく数学で30%を達成した。なお、英語は目標に至らなかったものの、英語教育実施状況調査（県教委実施、12月）では、「4月よりも英語力が向上したか」の問いに、1年：91%（前年度56%）、2年：54%（同65%）、3年：76%（同77%）が肯定的（「向上した」「どちらかと言えば向上した」）に回答しており、基礎力の定着について一定の成果が得られていると思われる。国語・英語の授業でChromebookが積極的に活用され、数学においても中学校からの学びなおしを学校全体での取り組みとするよう校内で改めて申し合わせたことから、今後少しずつ目標に近づくものと期待できる。

地域を支える人財・技術者の育成を本校の使命とし、生徒一人ひとりの職業観を早い段階から培う指導を続けている。昼休憩時に行う「企業・学校説明会」を29回実施（昨年23回）し、延べ214名の生徒が参加した。コロナ禍の影響が懸念され続けたが、企業からの求人数はこの3年間で微増しており、就職者数に対する求人倍率は10倍を超え、本校に対する信頼と生徒に対する期待の高さがうかがえた。生徒と企業の双方の希望及び要望について丁寧に聴き取りを進め、本校独自の「十人面接」の取り組みも徹底させたことから、第一志望の就職内定率は95%と令和4年度も目標を大きく上回るものとなり、今年も就職内定率100%を達成した。

人材育成（単年度資格取得）については一昨年55.8%と低迷した1年生の資格取得率が77.8%に向上した（昨年73.3%）。また、2年生の単年度資格取得率は60.0%、3年生は55.5%であり、学年が上がるにつれて資格取得の難度が上がるものの、最後まで粘り強く挑戦する姿勢がみられた。本校の学校運営協議会の参加企業から「（本校）卒業生は入社後にも資格取得にチャレンジしている」と伝えていただき、資格取得に向かう基礎力、意欲、目標意識の必要性を改めて感じた。令和4年度も難関資格の測量士補に7名、電気工事士1種に3名が合格、また、建築施工管理技術検定4名、土木施工管理技術検定9名が合格した。なお、資格取得を奨励するジュニアマイスター顕彰において、今年度の被顕彰者数は20名となり、目標を上回る結果となった。今後も顕彰制度を効果的に活用して、資格・検定取得及び大会等への出場に向かう生徒の意欲を一層高めたい。

引き続き学力の向上や専門力の習得、進路指導の充実等に継続して取り組み、専門人材の育成に努めたい。

※枚数任意